

北から南から

大宮赤十字病院（埼玉県）

森 律 子

晴れた日、都心の高層ビルから目を北に向けると左手には秩父山群が、正面には東京都と埼玉県の県境を流れる荒川が眺められ、その先に高層ビル群を目にすることができます。そこが21世紀へ向けて建設中の「彩の国・新都心」浦和・与野・大宮の三市にまたがる埼玉県の新しい顔です。都心からは電車で約30分、車では約1時間の距離にあります。

大宮市は武蔵の国一の宮・氷川神社を「大いなる宮居」とあがめたことから始まると言われ、その門前町として発祥したと言われています。その大宮も明治時代、高崎・東北線の分岐点として大宮駅が設置されてからは、旧国鉄の大宮工場と共に鉄道の町として発展してきました。

「大宮赤十字病院」は駅から南西方向へ徒歩約10分、国道17号を渡ったところにあります。住所は大宮ではなく与野市に入ります。

さて、当病院は昭和9年5月15日、日本赤十字社埼玉支部療院として開設され同年7月6日より、内科・外科・皮膚泌尿器科・産婦人科・小児科・耳鼻咽喉科の診療を開始しました。当時は77床でした。

その後、与野赤十字病院を経て昭和22年3月2日現在の大宮赤十字病院と改称され、昭和55年1月31日埼玉県救命救急センター及び本館増改築工事が完成し診療科目も、内科・神経内科・呼吸器内科・消化内科・神経診療科・呼吸器外科・心臓血管外科・皮膚科・泌尿器科・産婦人科・眼科・耳鼻咽喉科・理学診療科・放射線科・麻酔科の15科と健診セン

ターを有する643床の病院となりました。

検査部は昭和33年発足、当時は5名の技師でしたが、平成11年9月現在42名の技師で運営を行っております。

検査部は第一・第二・病理の三部で構成され、それぞれ組織上独立しておりますが、日当直など運営は共に行われ絶えず交流を図るよう努めております。

平成8年3月臨床検査システム（三菱のMERASU）に更新し、内科・循環器へは至急の依頼に対し結果が入り次第プリントアウトするようになり能率もアップされました。

休日夜間緊急検査は、日直（1人）、当直（1人）体制をとっています。検査項目は、血液5項目、生化17項目、血液ガス、血液型、輸血検査など行っています。件数は平均150件位ですが、週休2日制に伴う連休初日の朝の検体数は300件と多く当直者泣かせです。

採血業務は、血液と一般所属の技師が交代で外来採血室に1人出向しています。

技術の向上と基礎知識の取得を目的に部内勉強会も行い、少しずつの積み重ねが地域医療への貢献につながればと部員一同努力しています。



北から南から

武蔵野赤十字病院（東京都）

千葉 重 実

国木田 独歩の小説「武蔵野」で知られる東京の郊外に当院は昭和24年に開院され、今年の11月に50周年を迎えます。病院の概要は以下の通りです。

許可病床数 611床（一般病棟591床伝染病棟20床）

診療科 内科（総合、腎臓、血液、内分泌代謝、東洋医学）／循環器科／消化器科／呼吸器科／神経内科／外科／呼吸器外科／心臓血管外科／整形外科／産婦人科／小児科／耳鼻咽喉科／眼科／皮膚科／泌尿器科／放射線科／脳神経外科／精神科／形成外科／麻酔科／歯科（口腔外科）

指定医療 保険医療機関・保険薬局指定／国民健康保険法指定／生活保護法指定／結核予防法指定／更生医療指定／育成医療指定／養

育医療指定／原爆医療指定／労災保健法指定／伝染病予防法指定／地方公務員災害補償法指定／救命救急指定／優生保護法指定／老人医療費助成ひとり親医療助成制度／心身障害者医療助成制度／自動車損害賠償補償法／医療助成制度

機能 三次救急医療施設病院（救命救急センター）／エイズ診療拠点病院／東京都災害時後方医療施設指定病院／臨床実地指定病院／臨床研修指定病院／外国医師修練指定病院／健診センター／訪問看護ステーション併設／在宅介護支援センター併設／院外処方／ヘリポート（救急患者、災害活動など）

全職員数 1,144名（1999.6）の内、検査技師の数は39名で検査業務、採血業務（外来・病棟）、緊急対応で24時間の日・当直業務に携わっております。医療を取り巻く環境がきびしさを増す中で、一人一人の資質が問われる時が来ているように思われます。



北から南から

裾野赤十字病院（静岡県）

土 屋 博 行

裾野市は沼津、三島、御殿場の各市に隣接し、富士山、愛鷹山、箱根連山に囲まれた静かな人口約5万人の市です。

当院は、東名高速道路裾野インターより西に車で約10分のところにあり、市内唯一の公立病院で、診療科は内科・外科・産婦人科・整形外科・脳外科・小児科の6科です。

平成9年12月、入院棟の新築・外来棟の改装工事が竣工し、一般病床105 感染症病床14 合計119床、外来1日平均約330名の病院として新たにスタートしました。特徴は感染症病棟を持つこと、裾野市の救急を担当することで、救急取扱い患者数は平成10年度は1,329人でその内約81%が時間外、約10%が深夜の患者でした。科別では内科29.7% 外科14.1% 整形外科21.1% 脳外科9.5% 小児科17.7% 産婦人科3.1% その他4.8% でした。

検査室は6名で救急医療に対する貢献、診療に役立つ検査（即時報告）を目標に外来患者の検査室採血により外来検査の約90%が診療前報告です。

入院加療の必要な患者のピックアップ、再来の大変な患者に対するサービス等弱者の立場に立った検査室にしたいと考えています。

また時間外の救急に対しては、ポケベル呼出し（1ヶ月平均25回 最大35回）にて対応し、緊急検査項目は、特に指定はせずできる限り多くの情報を提供しよう心がけています。

平成9年7月に立ち上げた人間ドック健診業務も後発なので、何か特色をということで1日ドックの内容を全て午前中で終わらせ、健診Dr. より結果の説明を受け午前中に帰ることができることとしました。

企業健診、共済組合ドック等少しずつ増加しつつあり、検査室でも期待しています。



北から南から

引佐赤十字病院（静岡県）

藤 田 三喜夫

当院の所在地、引佐郡引佐町は静岡県の北西部（浜松市の北部、浜名湖の北東）に位置し、人口15,296人（平成11年5月末）で、細江町、三ケ日町、あわせて人口約53,000人の郡であり、名物には、みかん・鰻があり、自然環境に恵まれ歴史的にも深く、近くには館山寺温泉などあり、風光明媚な所で四季を通じて観光客の絶えない所です。又、2004年には、国際園芸博が浜松市庄内地区において半年間「花、緑、水～新たな暮らしの創造」をテーマに開催されます。

さて当院は、昭和21年日本赤十字社静岡県支部引佐診療所として、病床9床にて開設。

昭和26年 引佐赤十字病院に昇格

病床22床

昭和41年 病院改築

一般103床 伝染30床

平成7年 病棟新築

一般99床及び南館全面改装（健康管理センター・レストラン・福祉機器展示室・DR室・機能水生成施設等）

平成9年7月より訪問看護ステーションを開設

平成11年5月よりデイケアを開設

平成11年4月現在

1日平均入院患者数 91.6人

1日平均外来患者数 291.5人

職員数 140名（その内臨時31名）

検査技師6名（その内健康管理センター2名）

夜間・日曜・祭日は4名でポケベル体制で構成され、技術向上は勿論の事、経済面も視野に入れ、“患者さんの身になった検査”をスローガンに、日々努力しています。

西部地区は大病院が多く、医療は飽和状態にある。また激変する厳しい医療状況のなか、県内の検査部においても、ブランチ・FMS・全面外注と変貌しております。

それらを打破する為には、技師の意識革命と他部門とのコミュニケーション・患者サービスの向上・経済面での貢献度等、患者さんに信頼される病院という事を忘れず、検査部一同一丸となって頑張っていきたいと考えています。



北から南から

長野赤十字上山田病院（長野県）

林 正 明

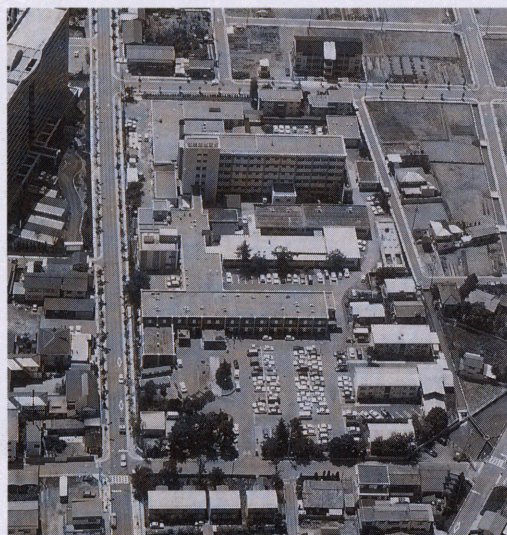
平成9年7月1日に国立長野病院より譲渡移管し、病院名を長野赤十字上山田病院と改名して早2年が経過しました。全国の赤十字病院の中でも分院と言う経営形態をとるのは当院が初めてと言う事で注目を集めました。

当院の病床数は一般病床158床、療養型病床92床のケアミックス型病院です。診療科は13科、職員数212名、1日外来患者数は390名です。当院の特徴は豊富な温泉を利用した専門的なリハビリテーション、スポーツリハビリテーションを行い、地域住民の健康増進、地域医療の向上を目指し職員一丸となって励んでいます。

検査部は1課2係でスタッフは男性3名、女性4名の計7名です。開院時は5名という少

人数ながら当直業務も開始しました。一方、日祭日の日直業務は本院の長野赤十字病院検査部より1名の技師を派遣していただき、少人数ながら24時間体制で地域の救急医療に貢献しています。業務内容は生理検査と細菌検査及び緊急検査主体の業務構築をしており、全員ローテーション制を採用しフリーシフトで臨んでいます。輸血業務はすべてを検査部で一元管理しており、病院・看護部から高い評価を得ています。病理検査は長野赤十字病院病理部の全面的な協力を頂き、院内検査と変わらないサービスを臨床側に提供しています。現在の厳しい医療情勢をスタッフ全員が認識し、いかに臨床、患者さんに貢献できるかを日常的に意識しつつ業務を行っています。

当院は長野市の南部30kmに位置し県下有数の温泉地、戸倉上山田温泉の中にあり、近くには千曲川の清流が流れており、鮎釣りやつけば漁が盛んに行われ素晴らしい自然環境です。近くを訪れた際は是非お立ち寄りください。



北から南から

京都第一赤十字病院（京都府）

野田 豊 和

当院はJR京都駅の南東1.5km、車で5分という便利な場所に位置し、周辺には静寂の中に玉砂利の音が響く泉涌寺御陵や東福寺があり、屋上から京都市内と東山連峰を一望することができる環境にあります。

当院は昭和9年11月に日本赤十字社京都支部病院として、病床数は186床で開設し、昭和18年1月に京都第一赤十字病院と改称しました。創立以来62年の歴史を経た本館は老朽化と狭隘化が進み、平成8年2月に改築整備工事が始まり、平成9年11月には、第一期工事として本館A棟（鉄筋コンクリート造地下1階地上6階、屋上ヘリポート）が竣工し、最先端の医療機器を備えた高機能の救命救急センターと、府内で唯一の総合周産期母子医療センターを開設しました。また京都府エイズ治療拠点病院に、さらに京都府内の基幹災害医療センターに指定されています。平成12年4月には、第二期工事として本館B棟が竣工する予定で、中央手術室が改築され、消化器センターも開設されます。このような改築整備事業の推進により、益々地域に密着した高機能地域医療中核病院としての役割を担うこととなります。

救命救急センターは開設以来、平均して、一日あたり、約11台の救急車が患者を搬入し、約53名の救急外来患者が来院しています。救急車の搬入件数は年間約3,700台で府下の実績を誇っています。救命センターの入院設備としては6床のICU、6床のHCUの他に18床の急性期患者用ベッドがあり、24時間即時使用可能な全身CT撮影装置、手術室も備えています。救命センターの常勤医師は、麻酔科3名、循環器科1名、脳神経外科1名、神経内科1名、外科6名、消化器科1名のスタッフから構成されています。夜間帯においても4名の救急外来医師および2名の救命病棟当直医、薬剤師ならびに放射線技師、臨床検

査技師も各1名が当直を行なっています。

平成11年5月現在、病院概要は敷地面積20,664㎡、総床面積48,199㎡、病床数768床、外来1,530人／日、職員数917名で構成され診療科は23科で運営しています。

検査部の構成は、3課11係で、部長（常勤病理医）1名、技師長1名、課長2名、薬剤師3名、臨床検査技師39名、検査員1名、事務1名を配置しています。平成7年2月に業務改善事業の一環として臨床検査システムの構築に取り組み、生化学、免疫血清、血液、一般、生理（心肺機能）、輸血（交差試験は除く）検査業務を一元化し、迅速検査と検査報告の統合化を実現しました。また医療支援としては、外来採血や輸血製剤の一元管理と共に、病棟検体の回収、予約検査による前日病棟採取容器の作成配布、病棟報告書配布を行っています。また、救命救急センター内の3台血液ガス分析装置の保守管理等を担当し、救命救急センターの需要に迅速な対応ができています。今後厳しい医療環境の中で、今までの「固定概念」では乗り越えることができない状況にあり、検査技師は、チーム医療の一員として常に柔軟な姿勢が必要です。21世紀に向け、検査部のひとりひとりが進むべき方向を相互に理解し、検査業務に一丸となって取り組み、検査部内外で協調と連帯をさらに深めるべく日々の研鑽に励みたいと考えています。



北から南から

小野田赤十字病院（山口県）

古 田 道 江

小野田市は豊富な石炭資源と瀬戸内海臨海地域という立地条件を備え、明治14年日本で最初の民間セメント会社が創立され、以来小野田市は化学工業と窯業を中心として発展してきました。しかしながら昭和30年代に石炭産業が衰退し小野田市の行財政は大きな影響を受けました。このため市民一体となり市勢の回復に努め企業や大型ショッピングセンターの誘致、山口東京理科大学、放送大学の開学など新しく生まれ変わろうとしています。自然環境としては全国トップレベルの公園都市で一人当たりの公園面積 31㎡と広く、小野田赤十字病院は2001年開幕予定の山口きらら博を記念して新たに整備されたきららビーチや6,600本の桜の名所竜王山公園の裾野に位置します。施設は現在社会問題になっている疾病結核の治療を目的とする山口県支部臨海療養院として昭和7年開院され、その名残として広い敷地と風雪に耐えた松林が少し残っています。時代と共に施設の改築と増床を経て平成7年に老人保健施設、在宅介護支援センターを開設し、小野田市南部地域住民の医療と健康管理に新たなスタートをしました。

平成8年4月院長に水田英司先生を迎え、高齢者医療・救急医療・健康管理の医療方針が発表されました。高齢者医療は包括医療を目指し健康管理から治療へ、そして療養型病棟

や老人保健施設の医療体制を整え、退院後の介護サービス等は在宅介護センターが支援し、救急医療は24時間体制で対応しています。また健康管理センターを設置し、二次検査・治療へと一貫した健康管理を行い、この三つの医療方針に沿い職員一丸となって職務を遂行しています。

検査部は、部長（内科部長兼務）以下技師6名の構成で、平成10年6月日立7170自動分析装置の整備を機会に検査システムを導入して生化学、血清学、血液学的検査（血液像目視分類、凝固線溶系検査）の連繋でシステム化の一步を踏み出しました。

病院全体のシステム化への構築にはまだ時間を要すると思われる為、検査システムの有効利用として健診結果報告書の作成をしています。検査部が精度の高い検査管理と迅速な検査結果の報告で臨床と健診支援が出来、また病院運営の一員であるという自覚を持ち、業務に励みたいと考えています。

病院の概要

敷地面積	27,707.77 ㎡
建物延面積	10,078.21 ㎡
病 院	7,143.16 ㎡
老人保健施設	2,934.05 ㎡
一般病床	132 床
療養型	40 床



北から南から

筑前山田赤十字病院（福岡県）

西 伊三郎

当院のある福岡県山田市は、筑豊炭田の中央に位置し、石炭産業隆盛時に、約3万9千人いた人口も今では約1万3千人弱まで人口減となって、北海道の歌志内市に次いで全国で2番目に人口が少ない「市」になった所です。当時、たくさんあった炭鉱の廃棄物である「ボタ山」も今では草木が生い茂り、その面影もありません。

しかし、山田市はそのやっかい物である「ボタ山」をなんとか産業に生かせないものかと荒れた土地に適したトマト作りに着手し、試験段階に入った所で、商品化出来る様になれば全国に「ボタ山トマト」として出回る事と思いますので、その節はあの福岡の山田市のトマトだと思って買って下さい。

さて、当院は昭和13年4月、日本赤十字社福岡県支部山田診療所として、内科・小児科・産婦人科、病床数30床で発足し、昨年創立60周年を迎えたところです。昭和23年5月、病院に昇格し、筑前山田赤十字病院と改称し、（三重県に山田赤十字病院があった為）昭和57年2月、敷地総面積11,746㎡・総床面積5,875㎡・病床数150床・一日平均外来患者数約420名・職員148名で構成され、診療科は内科・外科・整形外科・小児科・消化器科・眼科・

耳鼻咽喉科・泌尿器科・放射線科・リハビリテーション科の10科で運営されています。

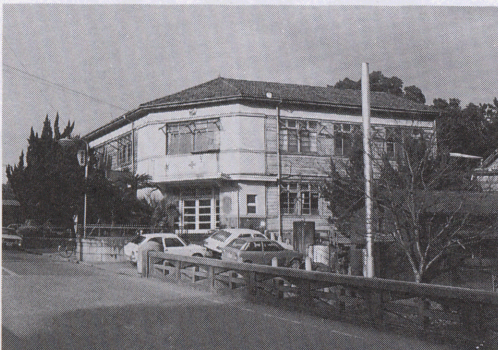
その中で当検査課は技師3名・助手1名（男性2名・女性2名）の4名で、一般・血液・生化学・免疫・生理検査等を毎月8,000～9,000件の検体を処理しています。

小規模病院という特徴を生かし、入院・外来の緊急検査に対応し、患者サービスの向上に努力している毎日です。

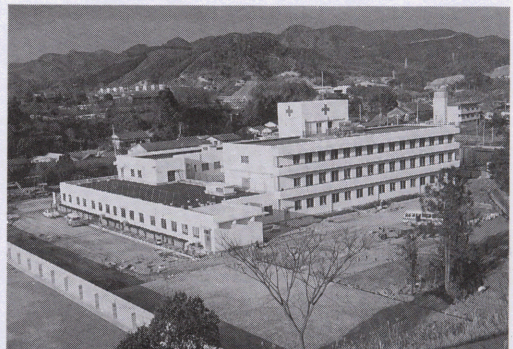
又、従来からの経営赤字から、平成8年6月、本社より経営悪化医療施設の準指定を受け、職員一丸となって経営改善へ。まず診療単価の向上・在院日数の短縮等に努め、平成8年度から10年度の3ヶ年間で約2億円の黒字を計上し、平成10年5月、当院の創立60周年記念式典当日に、経営悪化医療施設の準指定を解除されました。

又、高齢化の進んでいる地元のニーズに答える為、平成9年10月、デイケアセンター・訪問看護ステーションも併設し、平成11年6月より長期に渡り医療を必要とする、社会的入院患者を収容する療養型病床群制度を一部病棟で導入しています。

この療養型病床群制度の導入により、病院としての収益は望めても、検査課としての件数の増加、即ち収益増は望めない状態で、将来に向けて何をすべきか悩んでいます。



旧 病 院



新 病 院

北から南から

唐津赤十字病院（佐賀県）

浦方純子

唐津市は佐賀県の北部にあり、玄界灘に面し、日本三大松原の一つといわれる虹の松原や詩と歴史の松浦瀧など美しい自然とゆたか風土の町です。“唐津”の名は、当地方が古く神功皇后三韓遠征の船出の地と伝えられ、その当時“唐”は韓国や中国の呼び名であり、“津”は“みなと”という意味で、即ち唐に渡る津「唐津」となったものといわれています。（CITY MAP 唐津より）

唐津赤十字病院は、昭和27年2月唐津市民病院として開院され、昭和32年10月に日本赤十字社唐津赤十字病院に移管され、今日に至っております。

当院は、唐津市・東松浦郡の地域中核病院として、2～2.5次救急医療、急性期医療を中心に展開し、地域住民へ質の高い保健医療サービスを提供するように努力しています。

施設は病床数313床、診療科20科、職員数345名で、1日平均患者数は外来560名、入院290名となっています。

検査部は2課に構成され、人員の内訳は検査部長（内科医兼務）、技師13名、助手2名、技師パート1名となっています。

当院では、経営改善実施計画が平成8年から5ヶ年計画で策定され、救急医療、急性期

医療を充実するために平成8年度にICU、血管造影室（心カテ、一般）等の増改築が行われ、また、①患者サービスの向上 ②医療水準の向上 ③省力化・効率化・正確化 ④医療データベースを基本として、平成9年度からオーダーリングシステムの導入が行われています。それに伴って平成10年9月から検体検査オーダー、検査部門システムが稼働し、同年12月からは生理検査予約オーダー（心エコー、脳波、24時間心電図等）が稼働しました。スタート当初いろいろ問題が出てきましたが、今はトラブルも少なくなり作業効率も良くなりました。

またSPDシステムも整備され、診療材料等のサプライも平成10年12月よりスタートしています。検査部での在庫管理が楽になりました。

検査部では、部内での業務の効率化・他部署とのコミュニケーションなどを目標に、検査部全体で努力していきたいと思います。

